

名取市愛島の 歴史散歩

北目・塩手・笠島
小豆島の四地区

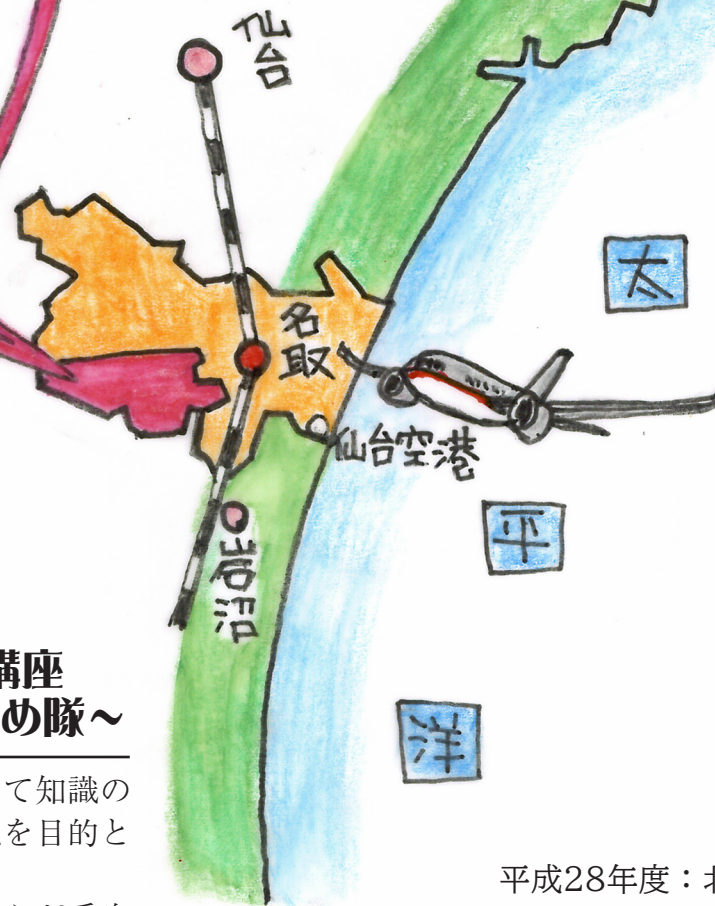
愛島公民館主催

愛島の歴史散歩

まち歩きマップ講座
～ウォーキングひろめ隊～

愛島地区の名所旧跡を訪れ、歴史を学ぶとともにマップ作りを通して知識の向上を図り、魅力ある地域資源の再発見と人材育成および地域活性化を目的とし、開催されました。

4年間で延べ70名の皆様に受講していただき、受講生の皆さん自らが愛島を歩き調べまとめあげました。内容、イラストすべて受講生の手作りの愛島の魅力満載のマップです。



平成28年度：北目地区
平成29年度：塩手地区
平成30年度：笠島地区
令和元年度：小豆島・笠島宮下地区

まち歩きマップ講座をふり返って

まち歩きマップ講座 講師 太田 昭夫

優しい響きをもつ地名の「愛島」、ここには豊かな山々、その麓から伸びる穏やかな丘、そして開けた広い平地という恵まれた地勢をもとに、先人たちが育んできた歴史や文化に関わるお宝が数多く残されている。40数カ所を数える遺跡群、山際を通る古い街道沿いに残された名所旧跡、信仰をあらわす神社やお寺・お堂、道ばたに点在する石碑群など、愛島は名取市内でも歴史を伝える文化遺産の集中する地区の一つとされている。

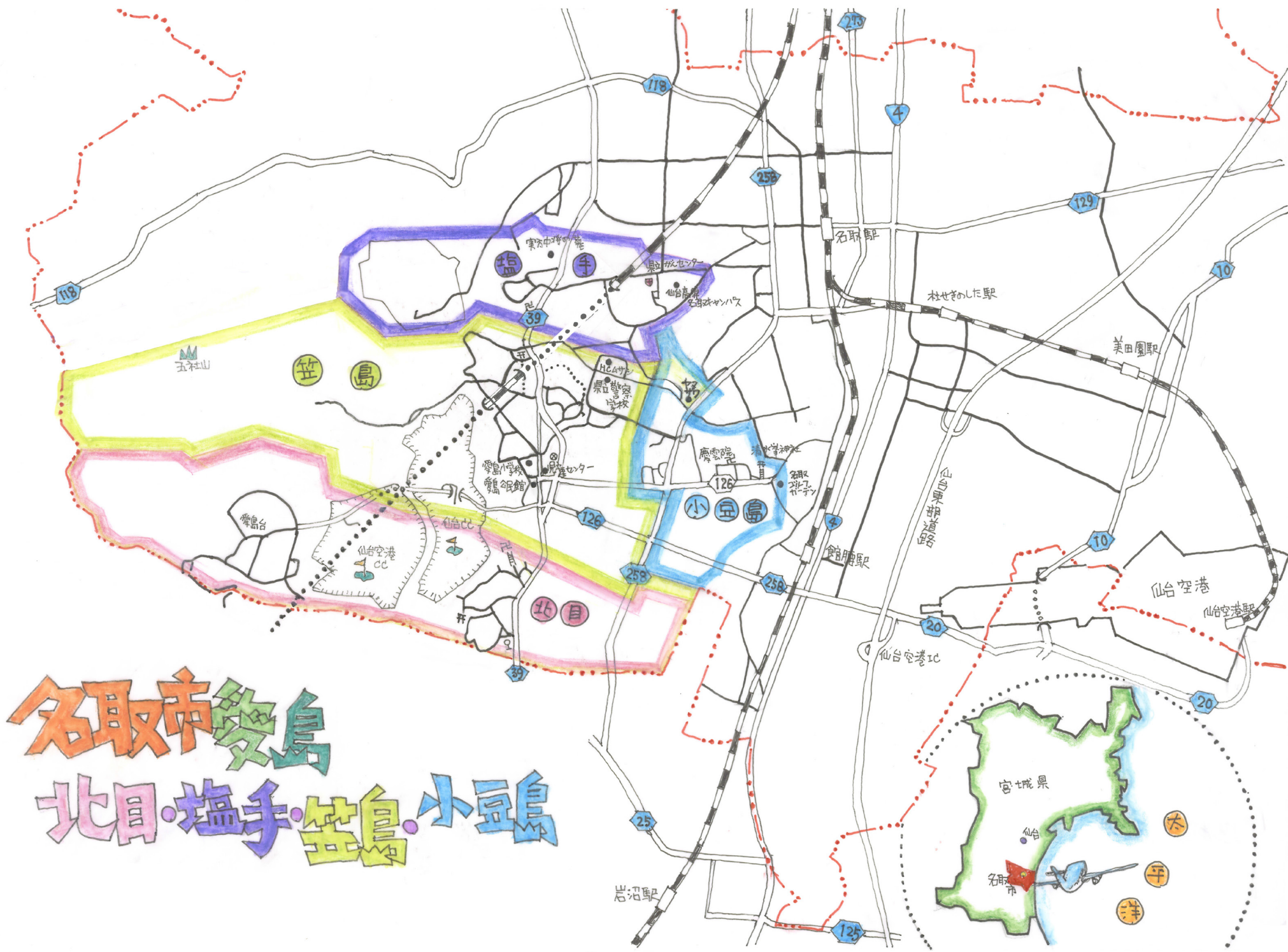
このような地元愛島に残されている史跡を実際に訪れて歴史を学び、地域の魅力を再発見しようという目的で企画され、平成26・27年度に実施されたのが「わが町愛島探検隊」であり、不肖ながら私がガイド役を務めた。

その講座終了後に学んで終わりではなく、みんなで形として残すものを作ったらどうかとの意見が出て、引き続き次年度から始まったのが「まち歩きマップ講座」である。この成り行き上、また私がガイドとサポートを担当することになった。マップ講座は平成28年度から今年度までの4年間にわたり、愛島を北目、塩手、笠島、小豆島の4地区に分け、各地区ごとに実施した。年度ごとの講座回数は7～9回で、各講座の受講生はおおよそ15名前後である。講座はおもに前半は現地踏査、後半はマップづくりに当てられた。なお、マップの目標としては、ガイドマップとしてほかの市民に広めるためにも、地域の個性が見え、歩いてみたくなるようなオンリーワンのマップに、見やすい紙面とわかりやすい表現に、散策する人に役立つ情報も入れる、などを掲げた。

前半の現地踏査では暑さや虫刺されなどに悩まされながらも、受講生の主体的で熱心な姿勢が各所で見受けられた。訪問地だけでなくその移動中でもガイド役にはその都度多くの質問や疑問が投げられ、関心の高さが伺えた。踏査を通じて新しい発見や感動も数多くあった。また道すがらその土地の方から貴重な情報をお聞きしたり、お寺や神社では住職や神主、管理されている方から由緒やご本尊、宝物などを見聞することもでき、地域の方々とのふれ合いを深められたのも大きな収穫だった。

後半のマップづくりでは受講生の特技が存分に発揮された。表紙では掲載する歴史スポット、盛り込む情報やカット、全体のレイアウトなどの決定事項をもとにイラスト担当が手作り感あふれる素晴らしいマップに仕上げた。裏面の地区のみどころでは各担当が持ち寄った原稿を数回にわたる読み合わせを経て決定稿とし、選んだ写真とともに掲載した。まさに総力戦で仕上げた個性あふれるオンリーワンのマップとなったと考えている。今後の課題は、できたマップの活用をどう広げていくかである。また実際にマップを利用された方からの意見を集め、将来の改訂などに備えることも必要かと思われる。





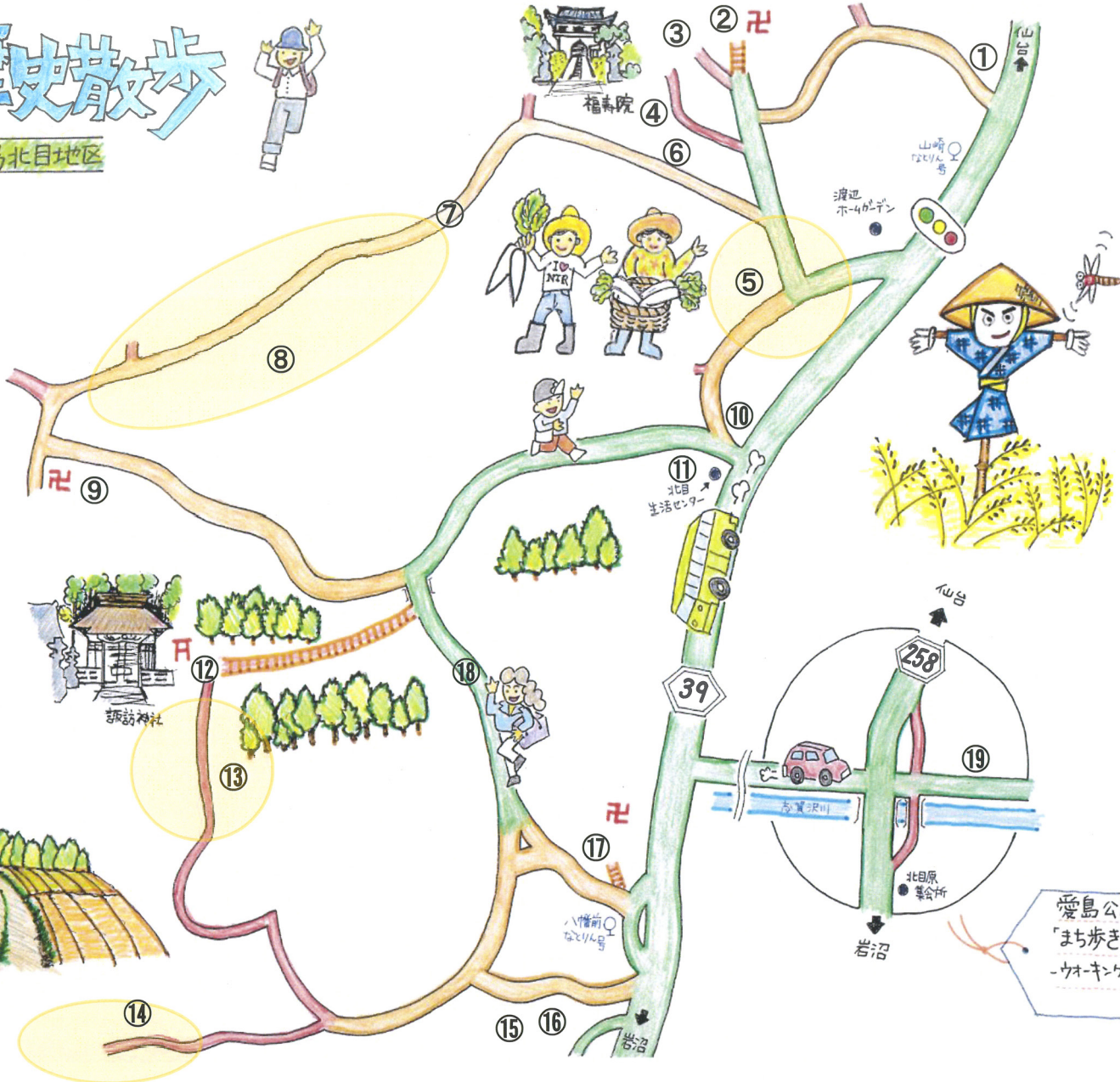
名取市 鹽島
 北目・塩手・笠島・小豆島

北目の歴史散歩

名取市愛島北目地区



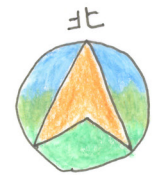
- ① 龍光院跡と石碑
- ② 福寿院
- ③ 地頭屋敷の造り
- ④ 十王堂
- ⑤ 宿前遺跡
- ⑥ 向山の墓石群
- ⑦ 東街道



- ⑧ 柳沢遺跡
- ⑨ 柳沢妙力不動尊堂
- ⑩ 山口の道端の石碑
- ⑪ 竹の内観音堂の板碑
- ⑫ 諏訪神社
- ⑬ 北目城跡
- ⑭ 山畑南貝塚
- ⑮ 伊達崎家累代之碑
- ⑯ 財蔵坊之碑
- ⑰ 北目薬師堂
- ⑱ 切通
- ⑲ 北目原の石碑群



愛島公民館
「まち歩きマップ講座」
-ウオキングひろめ隊-
編集



北目地区みどころ

たくさんの歴史が詰まった北目地区…どうぞお出でください。

① 龍光院跡と石碑



この辺りに龍光院があったという。塚の上に立つ石碑は江戸時代中頃のもの。その中に顔が三面、手が6本、鶏2羽、猿3匹の像があり、「青面金剛像」という。近くの墓石は江戸時代後期(18～19世紀)のもの。

② 福寿院



曹洞宗 室町時代永正6(1509)年、須賀川長祿寺末寺として開山。本尊は十一面観音である。境内には笠島から移された「笠島弁財天」や竹の内から移された「観音堂」などがある。

③ 地頭屋敷の造り



福寿院西隣のS家は屋敷の周りに堀をめぐらすなど、鎌倉時代頃の地頭屋敷の造りを残すといわれている。

④ 十王堂



江戸時代中頃に作られたとみられる閻魔大王を筆頭とする十王像がまつ祀られている。十王は、亡くなった人の生前中の行いを審判する裁判官。

⑤ 宿前遺跡



福寿院の南東方に広がる遺跡。弥生時代と古代の土器が発見されている。調査は行われておらず、詳しいことは不明。

⑥ 向山の墓石群



寺院が管理する墓地への移転整理から取り残された古い墓石をまとめたものである。享保・文化・文政・天保・明治などの年号があり、江戸中期から明治期までに建立されたものである。

⑦ 東街道



標高50～60mの見晴らしの良い尾根を通る幅2mほどの農道が岩沼方面から笠島、塩手を通り、高館方面に通じる東街道の一部と考えられている。

⑧ 柳沢遺跡



柳沢地区の高台を通る東街道の左右に分布する遺跡で、長さは約1km、幅は約200mと広大である。縄文時代と古代の土器などが発見されている。

⑨ 柳沢妙力不動尊堂



その草創は明治期で、村落住民が病魔に悩まされた折、山間の滝の所に不動尊の石像を造って祈願したのが起こりと伝える。昭和11年に日蓮宗法蓮寺(仙台市)住職(当時)の教化を受けた女性信者により基礎が固められた。現在の御堂は平成3年の建立。現在、堂主が不在のため堂内は拝観できない。

⑩ 山口の道端の石碑



江戸時代後期の古峰原信仰の金剛山碑と奉唱満念佛百萬遍供養塔、大正時代の馬頭観世音碑などがある。向かって右端は、名取郡の標柱である。

⑪ 竹の内観音堂の板碑



竹の内の観音山と呼ばれ、観音堂があったが、今は福寿院に移設されている。観音山には7つの板碑がある。最も大きい板碑は室町時代のもので高さ150cm、幅153cmあり、名取市内では最大の板碑である。

⑫ 諏訪神社



愛島では最も高い場所にある神社。いつ頃の創建かはっきりしないが、すぐ近くにあったとされる北目城との関わりから室町時代か鎌倉時代までさかのぼることも考えられる。「お諏訪さん」と呼ばれ地域の人々に親しまれている。

⑬ 北目城跡

今は杉林と雑木林に姿を変えているが、山畑南貝塚から諏訪神社に続く山道の東斜面にかけてが北目城跡とされている。鎌倉時代や室町時代、粟野氏が居城したなどの諸説がある。北目城は仙台市太白区郡山にもあり、伊達氏のライバルだった国分氏家臣である粟野氏の居城とされている。愛島の北目城跡の近くに諏訪神社があるように郡山にも諏訪神社があり、大変興味深い。

⑭ 山畑南貝塚



北目では最も古く、およそ4,000年前の遺跡。名取市にある貝塚では最も高い(標高約60m)見晴らしのよい場所にある。縄文時代中頃の貝塚で、貝はヤマトシジミが多く、ほかに鹿のツノや動物の骨なども出ている。また土器も多数見つかった。

⑮ 伊達崎家 累代之碑



昭和56年に北目出身の関取「桂川」檀崎質郎氏によって建立。「檀崎家」は江戸時代前、政宗により滅ぼされた須賀川城主二階堂一族を先祖とする「伊達崎家」が福寿院を頼ってニッ森に居を構え、後に「檀崎」に改称し北目原に移住したとされる。

⑯ 財蔵坊之碑

北目柚木前の檀崎家が裏山に建立。財蔵坊は、いつ頃の人か定かでないが六部で上方から来て居住した。人々に生薬を与えるなど福祉を授けた高貴な僧であったという。付近に「財蔵前」という地名も残っている。六部とはお経を66部書き写し、全国66カ国の霊場に奉納して回った僧のこと。

⑰ 北目薬師堂



地元の人には「オヤグツサン」として親しまれている。境内には、愛島では最も古い鎌倉時代(弘安6年)の板碑があり、宮城県内では例が少ない「関東型板碑」と呼ばれる形のものである。また参道石段左脇には「山神供養石碑」があり、農民達の山神講が建立したものとみられる。

⑱ 切通

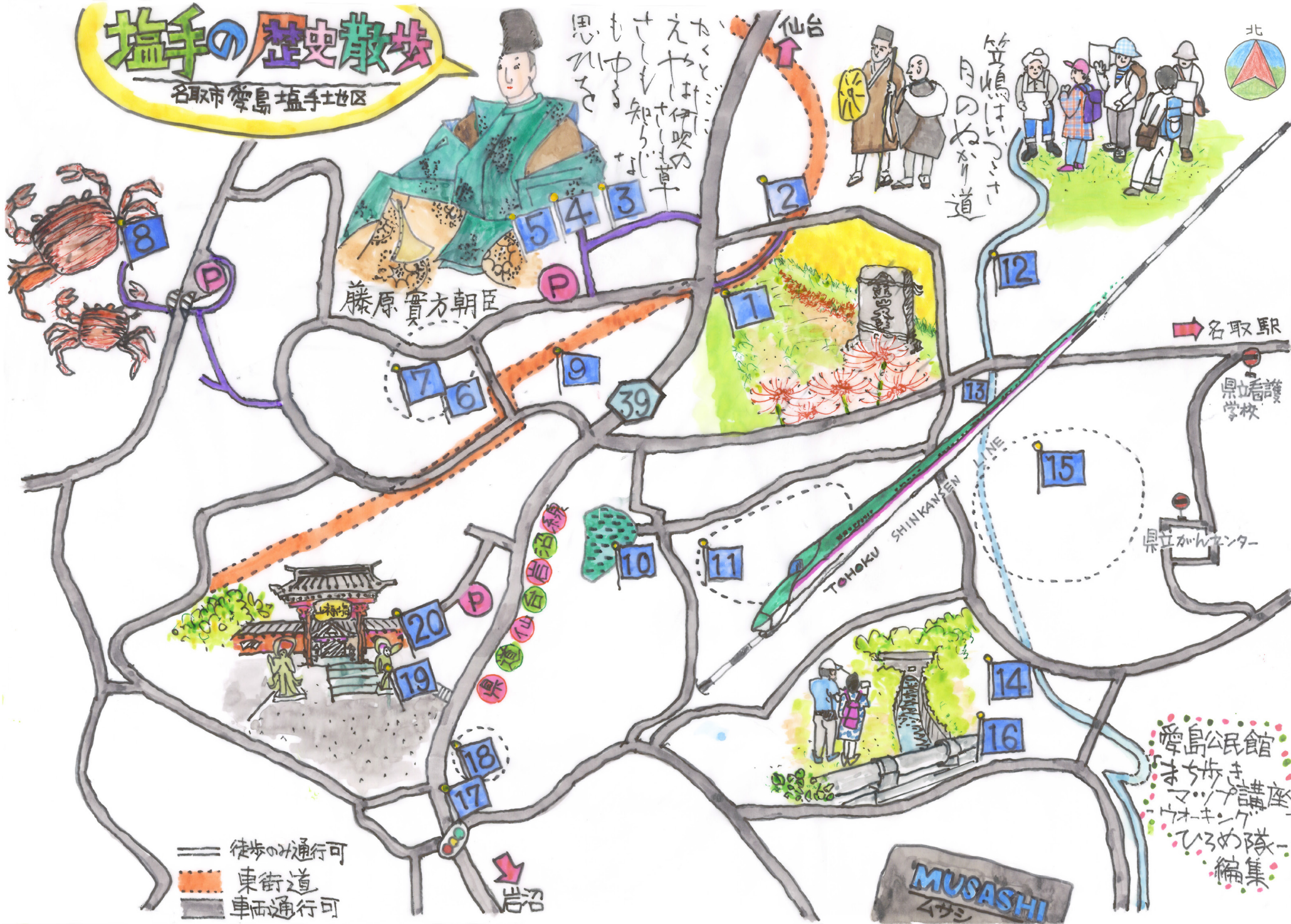
切通とは、山や丘を削って交通路として開いた部分のことをいう。北目城の鎮守神として建立されたとされる諏訪神社を参拝するための新道(近道)として切り開かれ、その後東街道の道筋ともなったようである。この辺りの地名「切通」の由来ともなっている。

⑲ 北目原の石碑群

天台宗常明院があったとされ、寺にあったとみられる供養の石碑がいくつか志賀沢川の堤防に並んでいる。

塩手の歴史散歩

名取市 雫島 塩手地区



えかくと伊吹の
かきおの草
しほしほ知ら
もゆる
思ひる

笠嶋は
月のやみ道

雫島公民館
まち歩き
マップ講座
トークン
ひろめ隊
編集

- 徒歩のみ通行可
- 東街道
- 車両通行可

MUSASHI
ムサシ

塩手地区みどころ

※印は、個人所有の土地になります。

たくさんの歴史が詰まった塩手地区...どうぞお出てください。

① 道標石碑金峯山

どうひょうせき ひ きんぼうざん
実方中将の墓を背景に用水路が流れ、そばに「金峯山」と書かれた石碑。
ここが東街道と奥州街道への道の分岐点だったものと思われる。名取の熊野詣での旅人もここで行く先を確かめたのだろうか。



② 塩手山本唱寺跡※

しおてざんほんしょうじあと
道標「金峯山」から北西方向の山裾にかつて塩手山本唱寺があった。
安永年間(1770年代)の「封内風土記」や、文化13(1816年)の「奥州名所図会」に「名取の三大寺の一つなり」と書かれているが廃寺となっている。



③ 北野横穴墓群※

きたのよこあなぼく
北野地区の山腹に数基の横穴墓がある。
古墳時代の終わり頃(約1300年前)に山の斜面に横方向の穴を掘り墓室にしたものである。ここの横穴墓からは須恵器の壺などが見つっている。



④ 実方中将の墓と歌碑群

さねかたちゅうじょう はか か ひ ぐん
中古三十六歌仙の一人、左近衛中将藤原実方朝臣は、藤原一門の中でも由緒ある家柄に生まれ、光源氏のモデルともいわれる貴公子として知られている。
一般には、歌で藤原行成といざこざを起こし、一条天皇から「みちのくの歌枕を見てまいれ」と陸奥国の国守に左遷されたといわれているが、希望して陸奥国に来たとの説もある。実方が陸奥に来て4年目の998年、出羽国の阿古耶の松を訪ねての帰り道に、笠島道祖神の前を馬に乗ったまま通ろうとしたら、村人にいさめられた。その忠告を無視して通り過ぎようとしたところ、馬が暴れて倒れ、落馬がもとで命を落としたという(源平盛衰記)。
実方の墓にはその後、いにしへの歌人を偲び、多くの歌人や俳人が訪れており、平安時代末期に訪れた西行法師の歌碑～朽ちもぬ其名ばかりをとどめ置いて枯野の薄かたみにぞ見る～や、江戸時代の仙台の俳人松洞馬年の句碑～笠島はあすの草鞋のぬき処～がある。また、奥の細道を訪ねた折、切望しながら訪問を断念した松尾芭蕉の句碑～笠島はいづこさ月のぬかり道～がある。
なお、没後千年にあたる平成10年(1998)以来、10月第3日曜日に墓前献詠会が開催されている。



⑤ 佐具観神社跡

さくえじんじああと
平安時代の延長5年(927年)にできた延喜式神名帳(式内社)に記載されている由緒正しい神社である。<かつては実方中将の墓の北西の山にあったが、文政元年(1818年)今の地に移された。>
明治初期における維新政府の神仏分離令と神社集合令により、現在は道祖神社に合祀され、佐倍乃神社となった。



⑥ 雲南権現社※

うんなんこんげんしゃ
西滝沢の板橋氏の屋敷に「雲南権現さま」が祀られている。
言い伝えでは先祖が塩手を開拓したときに守護神として祀った氏神様という。終戦直後に放火により社殿などが焼失し、石碑が二つ残っていた。
これらは室町時代初期頃の板碑で、再建された社殿の後ろにある。



⑦ 亜炭産出跡

あたんさんしゅつあと
塩手の滝沢付近には今からおよそ300万年前の木の化石が埋没している。亜炭と呼ばれ石炭よりも木に近く、燃やすと臭いも強く煙も多い。この亜炭層は江戸時代の終わり頃に仙台の八木山から西多賀にかけて発見され、明治の後半から昭和30年代まで採掘されて燃料として盛んに利用されていた。塩手でも亜炭が採掘されていたようである。



⑧ 滝沢不動尊

たきざわ ふ どうそん
『なり百選』にも選ばれ、地元の人々には「滝の不動さま」と呼ばれ親しまれている。沢の上流に不動尊堂と滝があり、堂の中と滝に打たれた不動明王像が安置されている。滝に打たれている不動明王像は箕輪から江戸時代初期に移したものである。



⑩ かりがね堤

つみ
伝説によると野田山に「野田の清水」と云われるところがあったという。その水の溜が八坂神社の北裏にあり、この池で前九年の役(1051～1062年)で大館城(高館地区)を攻めていた源義家が鎧姿を写して整えたので、「鎧が池」と云われた。その後「かりがね堤」と云われるようになった。

⑨ 東街道跡

あすまかいどうあと
岩沼から愛島、高館を通り、名取川を越えて多賀城に至る東街道は江戸時代に奥州街道が整備されるまで旅人が往来する幹線道路だった。当時の街道跡は明確ではない。

⑪ 西野田遺跡

にしのだいせき
東北新幹線の工事前の昭和48年に発掘調査が行われ、古墳時代前期(たて穴住居跡11軒)と平安時代(たて穴住居跡3軒)のムラの跡、江戸時代の堀の跡などが発見された。

⑮ 野田山遺跡

のだやまいせき
平成2年の県立がんセンター建設と平成11・12年の付属施設建設に伴い、発掘調査が行われた。これまで旧石器時代の石器、縄文時代の落とし穴、古墳時代前期のたて穴住居跡5軒などが見つっている。
特に旧石器時代は名取市最古の資料であり、また古墳時代前期では近畿地方のものと同じ作りの土器が見つっている。

⑮ 八坂神社

やさかじんじあ
前野田に八坂神社があり、同じ境内に地藏菩薩堂も並んでいる。八坂大明神として地藏菩薩を本地仏にいたが、明治維新の神仏分離令で神社と仏堂を分離した。境内には鎌倉時代建立の板碑や江戸時代の庚申碑などもある。中澤家が屋敷内に祀っている。毎年6月14日に祭礼が行われている。



⑮ 水神碑※

すいじんひ
川や泉など飲料水やその他の用水を得る水汲み場などに祀られていた。
水神碑のある場所は東街道と道祖神への交差点にあり、道しるべともなっている。水神碑の近くにかつて旅人のお休み処としての茶屋があった。



⑮ 十石上古墳

じゅっこくかみ こふん
6世紀頃(約1400年前)に造られた塞ノ窪古墳群中で唯一の小型前方後円墳(帆立貝式古墳の可能性もある)で、全長32メートル、後円径18メートル、高さ3.8メートル、前方部長さ14メートル、高さ2.6メートルである。古墳の西側(県道側)は土取りのため破壊されているが東側は原型をとどめている。
十石という地名の由来は、言い伝えによると、水が1日十石(ドラム缶10本分)ずつ湧いたからとされている。



⑮ 塩薬師堂

しおやくしどう
言い伝えによると、いつの頃よりか塩の池の端に薬師瑠璃光如来を祀るお堂があった。ある時、野火により火災に遭い、本堂のご本尊は、空中高く飛んで近くの松の木の上にかかり、難を逃れた。村人がその地にお堂を建てて安置したのが現在の塩薬師如来堂の由来とされる。かつて二百十日に盛大な祭礼が行われていた。



⑮ 上堀用水出口

うわほりようすい てぐち
⑮ 上堀用水隧道(野田山トンネル)の南側に出口がある。

⑮ 永禅寺

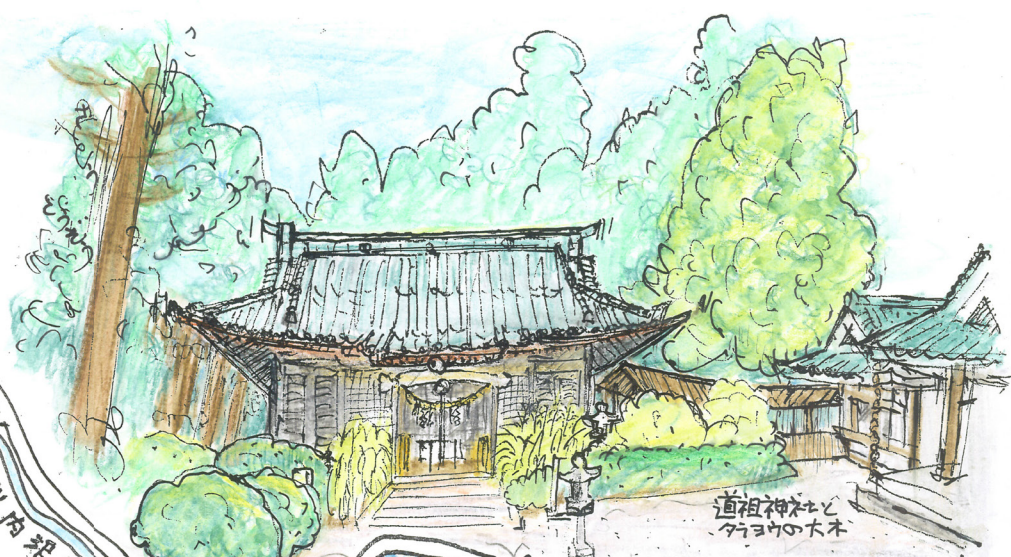
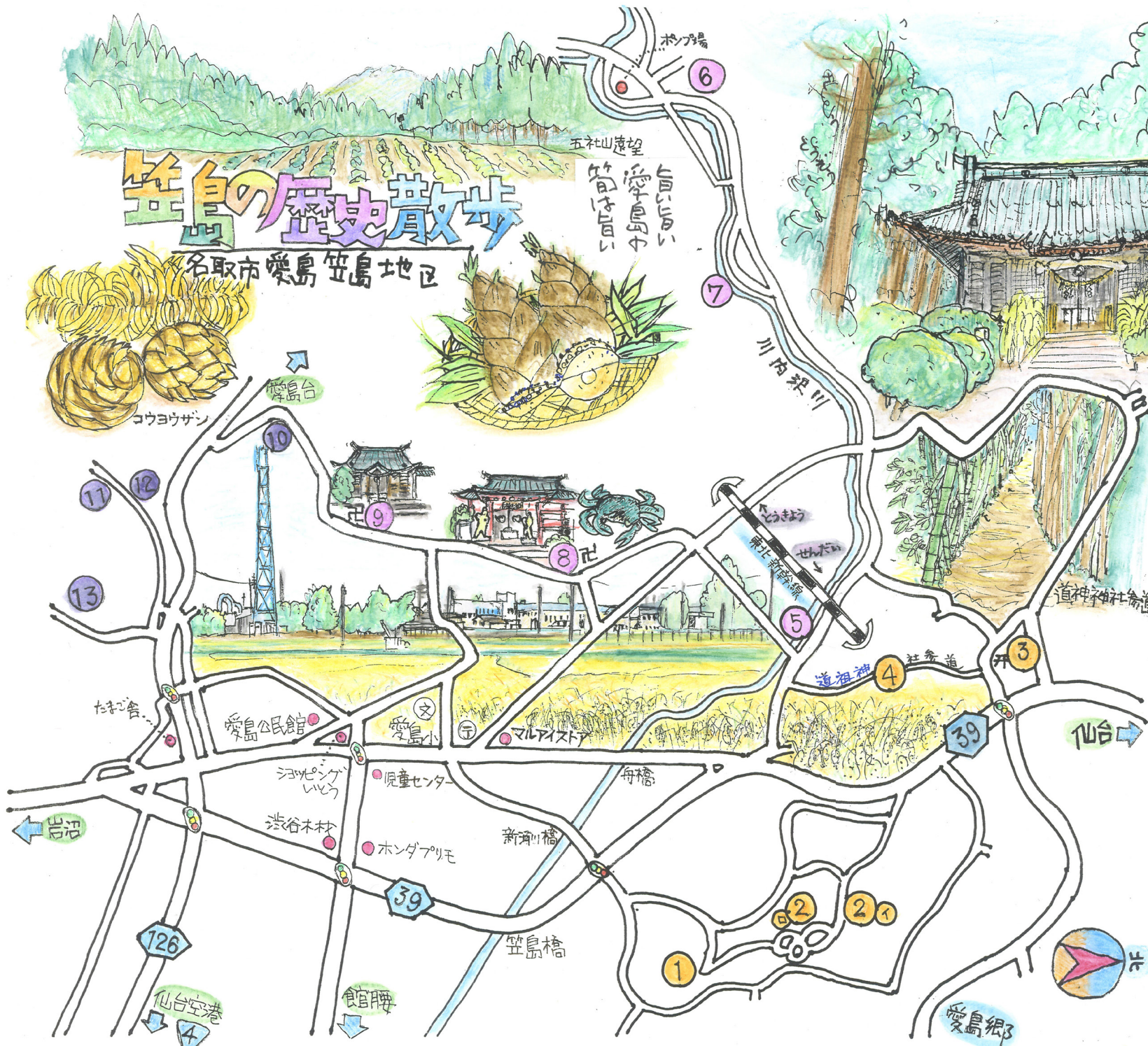
えいぜんじ
曹洞宗 根岸宗禅寺の末寺で本尊は釈迦牟尼仏。寺の由来など記録が火災により焼失し、不明である。「封内風土記」にも「明厳邦誉和尚開山の年月はわからない」と書かれている。



現在の永禅寺開山の年は、慶長3年(1598年)と曹洞宗根岸宗禅寺書に記されている。

笠島の歴史散歩

名取市愛島笠島地区



- ① 馬頭観音と道標
- ② 賽、窪古墳群
 - ① 5号墳
 - ② 名取大塚山古墳
- ③ 佐倍乃神社(道祖神社)
- ④ 笠島庵寺跡
- ⑤ 道祖神宮古址
- ⑥ 子安観音堂
- ⑦ ゲジボタル生息地
- ⑧ 智福院(蟹寺)
- ⑨ 安養院(算術先生の
供養碑)
- ⑩ 阿弥陀堂
- ⑪ 沢の薬師堂と石碑群
- ⑫ 善福寺跡
- ⑬ 峯の薬師堂

愛島公民館
まち歩きマップ講座
ウォーキングひろめ隊
H-30-10編集

笠島地区みどころ ※印は、個人所有の土地になります。

たくさんの歴史が詰まった笠島地区…どうぞお出てください。

① 馬頭観世音と道標



賽ノ窪古墳群南東部入り口に寛政12年(1800年)に建てられた石標である。供養碑『馬頭観世音』と『右は増田、左は仙臺道』と彫られた道標を兼ねたものである。

② 賽ノ窪古墳群

大塚山古墳を中心に30近い古墳からなり、古墳時代後半(5～7世紀)に造られた。

イ・5号墳

尾根の竹林に墳径18メートル高さ2.5メートルで、周溝を伴った円墳があり賽ノ窪古墳群の中で最も保存状態が良い。



ロ・名取大塚山古墳

前方後円墳で5世紀中頃に造られた。後円径60メートル高さ9メートル前方部長30メートル全長90メートルで、県内4番目の大きさの帆立貝式古墳である。



④ 笠島廃寺跡

現在の佐倍乃神社(道祖神社)の表参道沿いに位置し、東街道の名残をとどめている竹藪の中にひっそりと存在している。塔を支える心柱の大きな礎石や、奈良～平安時代に造られた布目瓦等が発見されている。私的な寺院跡と考えられてきたが、郡役所等に関わる遺跡が近くから発見されており、その関係も注目されている。



⑤ 道祖神宮古址



道祖神社は、最初現在地より南方の山すそに鎮座していた。その付近で地元の人が石祠の笠石を見つけたことから、この地に道祖神宮古址の石祠を建立した。

⑥ 子安観音堂※



子育観音あるいは慈母観音ともいう。本来の観音菩薩ではなく、民間の安産や育児を祈願する子安信仰から造られた。堂脇の石仏に頭部が無いのは子宝産授を願う人がこの石を削り取って持ち帰り煎じて飲んだと伝えられている。

⑨ 安養院



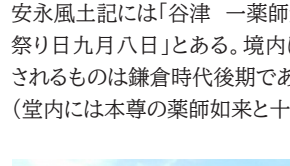
真言宗智山派の寺院である。高館熊野堂の新宮寺が本寺で、本尊は薬師如来である。現在、館腰の弘誓寺で管理している。境内には関流算術の指導者であった倉上茂右衛門の供養碑がある。

⑩ 阿弥陀堂※



宝永2年4月15日(1705年)佐藤家の氏神として杉山の隅に堂を建立し、旧8月15日毎年祭りを営んでいる。現在の堂は三代目である。隣には大日如来も祀られている。

⑪ 沢の薬師堂と石碑群※



安永風土記には「谷津 一薬師堂 三尺四方 地主 勘右衛門 但し 祭り日九月八日」とある。境内には五基の板碑がある。年号が確認されるものは鎌倉時代後期である。(堂内には本尊の薬師如来と十二神将像が安置されている。)



③ 佐倍乃神社(道祖神社)

創建は景行天皇40年(110年)、日本武尊の東征の折に勧請されたといわれ、名取市内では有数の古社である。明治7年古称の佐倍乃神社に改称されたが、今でも「道祖神社」として親しまれている。

当社は、坂上田村麻呂や源頼朝、伊達政宗など時の権力者から社殿や祭料の寄進を受け、太刀などを奉納されたと伝わる。

しかし、慶長7年(1602年)の野火で社殿・古文書・宝物等一切が焼失したため、それ以前の詳細は不明である。また歴代伊達藩主からも篤く崇敬され、現存の拝殿は元禄13年(1700年)に伊達綱村が建立し、本殿は伊達斉村が寛政3年(1791年)に寄進したものである。

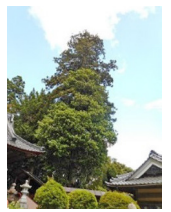
享保17年(1732年)神階「正一位」の宗源(そうげん)の宣旨(せんじ)を受ける。また明治41年(1908年)、延喜式内社の佐具叡神社等10社を合祀し、郷社に列格した。



4月20日の例祭日には、宮城県指定無形文化財の出雲流「道祖神神楽」が奉納される。

祭神が猿田彦大神(さるたひこおおかみ)と天鈿女命(あめのうずめのみこと)の夫婦神であることから、縁結び、夫婦和合などのほか芸能技芸向上の御神徳があるとされ芸能関係者も参拝に来るといふ。

当社に因む故事として、平安中期の歌人で陸奥守であった藤原実方朝臣が、下馬せずに道祖神の前を通り過ぎようとして神罰により落馬し横死したと伝わる。なお、拝殿に向かって右側に見える御神木のタラヨウの木は、北限のタラヨウの巨木として大変珍しく貴重なものである。



⑦ ゲンジボタル生息地

愛島丘陵の五社の峯を水源として中ノ沢の谷間を縫うように流れる川内沢川(新カ川)で6月～7月に、川内集会所付近にホタルが多く観られる。



現在この上流にダム建設が計画されているが、ホタルの棲める環境を維持していきたいものである。

⑧ 智福院

曹洞宗の寺院である。開山は室町時代(1436年)で、蟹の恩返し伝説があり、蟹供養で有名な寺である。蟹は石をかき集めることから商売繁盛、願い事が成就されると伝えられている。蟹を祀った寺としては全国で京都の蟹満寺と2カ所のみである。



⑫ 善福寺跡※



江戸時代にあった真言宗の長徳山善福寺は、高館熊野堂の新宮寺の末寺で、沢の薬師堂の別当寺であった。

明治8年焼失後再建されず、昭和9年安養院に統合された。現在は門がわりとなっていた供養碑のみが残されている。

⑬ 峯の薬師堂※

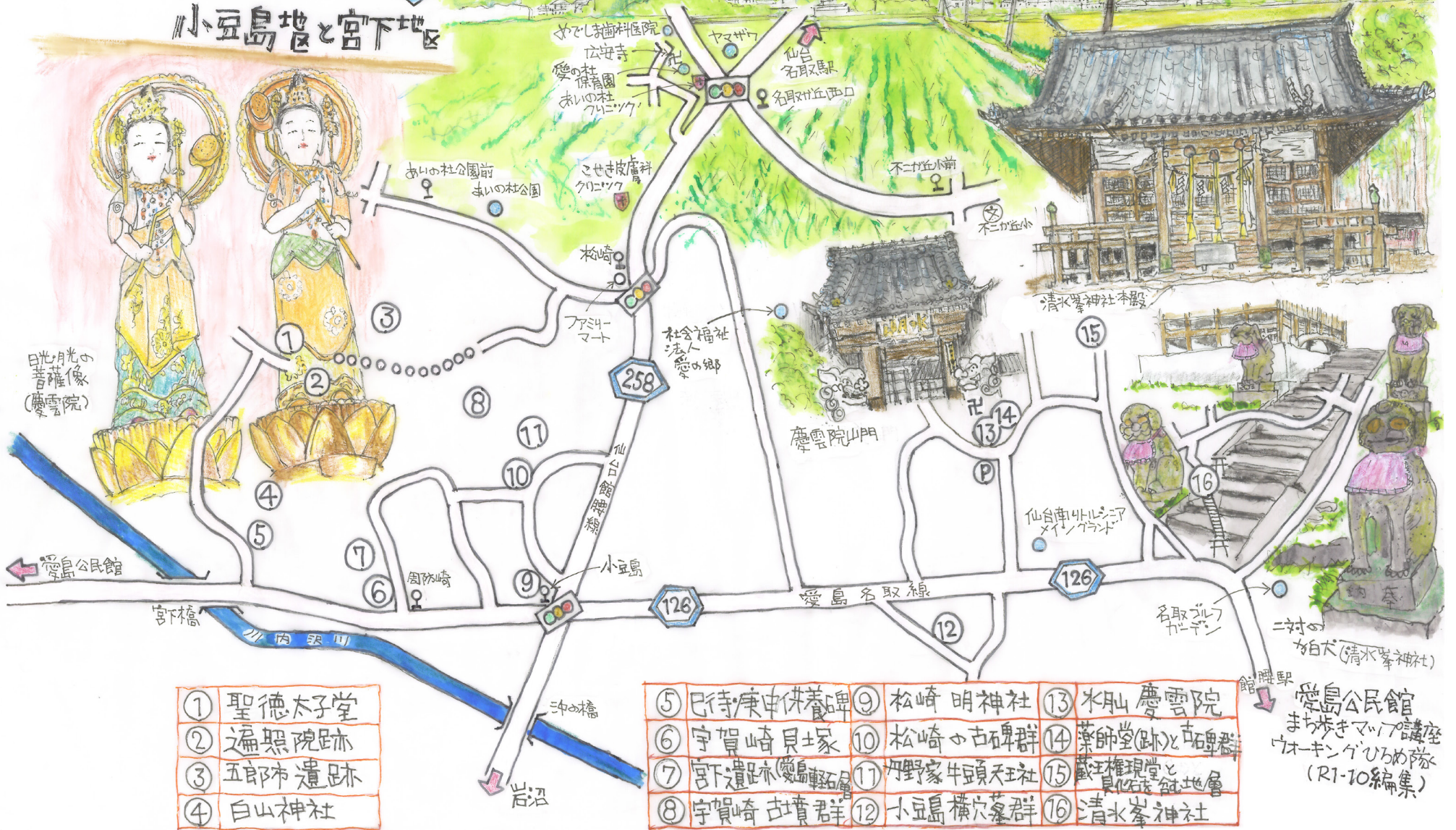
沢の薬師の南東側の山の上に祀られている。安永風土記には「壹ノ坪 一嶺野薬師堂 五尺四方 地主 吉兵衛 但し祭り日九月八日」とある。周囲の林には、杉に混じってコウヨウザン(広葉杉)の大木が生えている。



小豆島・笠島宮下の歴史散歩

名取市愛島

小豆島堤と宮下地区



- | | |
|---|-------|
| ① | 聖徳太子堂 |
| ② | 遍照院跡 |
| ③ | 五郎布遺跡 |
| ④ | 白山神社 |

- | | | | | | |
|---|------------|---|----------|---|----------------|
| ⑤ | 巳待庚申供養碑 | ⑨ | 松崎明神社 | ⑬ | 水山慶雲院 |
| ⑥ | 宇賀崎貝塚 | ⑩ | 松崎の古碑群 | ⑭ | 薬師堂(跡)と古碑群 |
| ⑦ | 宮下遺跡(愛島新屋) | ⑪ | 丹野家牛頭天王社 | ⑮ | 蔵王権現堂と貝佐土跡(地層) |
| ⑧ | 宇賀崎古墳群 | ⑫ | 小豆島横穴墓群 | ⑯ | 清水峯神社 |

愛島公民館
まち歩きマップ講座
ウォーキングのつりめ隊
(R1-10編集)

小豆島・笠島宮下地区みどころ

※印は、個人所有の土地になります。


たくさんの歴史が詰まった
小豆島・笠島宮下地区…どうぞお出てください。

しょうとくたいしどう
① **聖徳太子堂**※



宮下の郷内家敷敷地内に「16歳孝養像」を祀る太子堂が建っている。以前は裏山の上であり、縁日には賑やかに「太子講」が開かれていた。その後、お堂が古くなったので現在地に移された。

へんしょういんあと
② **遍照院跡**



遍照院は丸森町にあった修験道の鬼越山東光院の霞場で加持祈禱一般を行い、隣接している聖徳太子堂の別当寺の役割を果たしていた。(規模、年代不明)
(霞場とは祈禱・縄張的地域を云う)

ごろういちいせき
③ **五郎市遺跡**



古墳時代初めの大きいお墓が8基見つかった。その多くは「方形周溝墓」と呼ばれる。四角に溝を掘り、その内側に土を積んだもので、大きな古墳につながるお墓とみられている。近くには同じころの宇賀崎古墳群がある。

はくさんじんじゃ
④ **白山神社**

全国各地に鎮座し、菊理姫神を祀り石川県白山市(加賀国)のしらやまひめのじんじゃ白山比咩神社を総本社とする。生活、農業に不可欠な命の水の信仰に深くかかわっている。以前は山の上であり、その麓を宮下と云ったことが地名の起こりといわれる。



みまち こうしん く よう ひ
⑤ **巳待・庚申供養碑**



宝暦11年(1761)に弁財天講(己巳の日などに講中や個人で遅くまで起きていて精進供養をする行事)と庚申講(庚申の夜夜釈天・青面金剛を祀り寝ないでお祀りする行事)が、共に建立したものである。そばには文久4年(1864)建立の馬頭観世音碑もある。

う が さき かい ず か
⑥ **宇賀崎貝塚**



県内屈指の貝塚の一つで、名取市では最古の縄文時代の遺跡である。貝層下部には、およそ6500年前のハマグリやアサリなど、また上部にはおよそ5500年前のヤマトシジミなど貝類の他にも縄文土器や石器が発見されている。


みやした いせき めてしまかるいしろう
⑦ **宮下遺跡(愛島軽石層)**



宇賀崎貝塚の北側にあった古墳時代から奈良・平安時代の集落跡である。竪穴住居跡43軒、建物跡2棟が見つかっている。近くの崖には、およそ10万年前に川崎町安達付近から飛んできた軽石層(愛島パミス)が見られる。

う が さき こ ふんぐん
⑧ **宇賀崎古墳群**

松崎と五郎市地区に、4世紀に造られた6基の古墳が存在している。とくに南端の1号墳は、原形は失われているが、1辺が約20メートル、高さ約2メートルの方墳で主体部には割竹形木棺が納められていた。2号墳から6号墳は、未発掘の低墳丘墓群である。



まつざきあみょうじんじゃ
⑨ **松崎明神社**※



竹駒神社から分祀されたという松崎明神社は、かつて宇賀崎古墳(1号墳)のそばに鎮座していたが、昭和47年12月発掘調査終了後現在の地に移された。毎年正月、地域の人たちにより歳旦祭が行われている。

まつざき こ ひぐん
⑩ **松崎の古碑群**



道路の角に古墳のような高まりがあり、その上に7～8基の石碑と石像が建っている。江戸時代のものには青面金剛の梵字(古代インド文字一字で仏さまを表す。)の入った庚申塔や馬の守護にかかわる松尾観世音碑などがある。

たんのけごずてんのうしや
⑪ **丹野家牛頭天王社**※




松崎の丹野家が氏神として裏山に祀る社である。参道中腹の石碑によれば明治34年建設とある。笠島川内から勧請したと伝えられている。最近改築したが、扁額、木鼻と海老虹梁は創建当時のものである。

あずきしまよこあなぼくん
⑫ **小豆島横穴墓群**



小豆島横穴墓(丘陵の斜面に造られたお墓)群は2群存在したが、島のように離れた場所に数基確認されるだけになった。現在、それらは原形をとどめない。ここから発見された遺物には、土師器や須恵器などがある。それらの特徴から、墓は7世紀後半から8世紀前半(飛鳥時代から奈良時代前半)に造られたものと推定される。

すいげつさんけいろういん
⑬ **水月山慶雲院**




仙台市若林区新寺にある松音寺の末寺で、松音寺九世のみんなくりにないだいのしろう 民國麟泰大和尚が寛永九年(1632)に開山された曹洞宗寺院である。本尊は水月観世音菩薩。もともとは現在の場所ではなく明治14年に小豆島西地区の松崎(東根)にあった。現在地に移転してからは北側にあった薬師堂(現在は跡地)の管理を担当している。

やくしどうあと こひぐん
⑭ **薬師堂(跡)と古碑群**



お堂は江戸時代末期の建立で、室内には木造金泥塗薬師如来像を中心に、日光・月光の2菩薩像が脇侍し、十二神将が御供する仏像が祀られていたが、現在は老朽化のため解体され、新造された像が慶雲院本堂に安置されている。かつての境内には庚申供養碑(3基)や不動明王座像などの古碑群が残されている。

ざおうこんげんどう かいかせき ふくちそう
⑮ **蔵王権現堂と貝化石を含む地層**※



大友氏方の裏山にある。修験道の本尊、蔵王権現が祀られている。この蔵王権現堂の付近一帯は堆積岩で出来ており、今から4～5百万年前の海の貝化石が含まれている。

小豆島の地名の由来いろいろ 地名『小豆島』の由来(清水峯神社の由来より)
1. 武内宿禰が「吾(あ)着(つき)島(しま)」と言ったから。
2. 漁師が網を干すのに良い島という意味の「網着島」から。
3. 漁師が網を干すのにちょうど良いほどに樹木が少なく、「暑き島」による。

※その後発音がなまって『あずきしま』と言うようになり、何故『小豆島』の字になったかは定かでない。アズキが特産だったとか、小豆芹が名産だったとかは憶測に過ぎない。

しみず みねじんじゃ
⑯ **清水峯神社**

神社の起こりは、景行天皇25年(95)武内宿禰によると言い伝えられている。貞観12年(870)社殿を改築し、廣峯神社(兵庫県姫路市)から御神体が分霊された。安永5年(1776)本殿建立され、明治3年に牛頭天王社から清水峯神社に社号をあらためた。祭神は素戔鳴尊、少将井、稲田姫命である。現在の拝殿は安永年間(1772～1781)に建立された。境内には神楽舞台、神輿舎、末社、厩が付属し、参道石段入口の両側には石碑が並び、神楽舞台前には狛犬が置かれている。拝殿内には絵馬などが奉納されている。




地名の由来

愛島（めでしま）＝明治22年町村制施行に伴い北目村、笠島村、小豆島村、塩手村の4カ村が合併し村制を施行することとなった。この際、笠島・小豆島の島、北目の目、塩手の手をとって村名を「目手島」とし、さらに「目手」の文字を「愛」と書き換えて「愛島」とした。当地と伊達家との結びつきが深いことから伊達政宗公の妻「愛姫」の『愛』の一文字を「めで」と読み替えたとの憶測もある。（館長 今野広司）

笠島（かさしま）＝道祖神社（佐倍乃神社）の正一位の冠にちなみ冠島と呼ばれたが、後に文字を誤り笠島といわれるようになった。

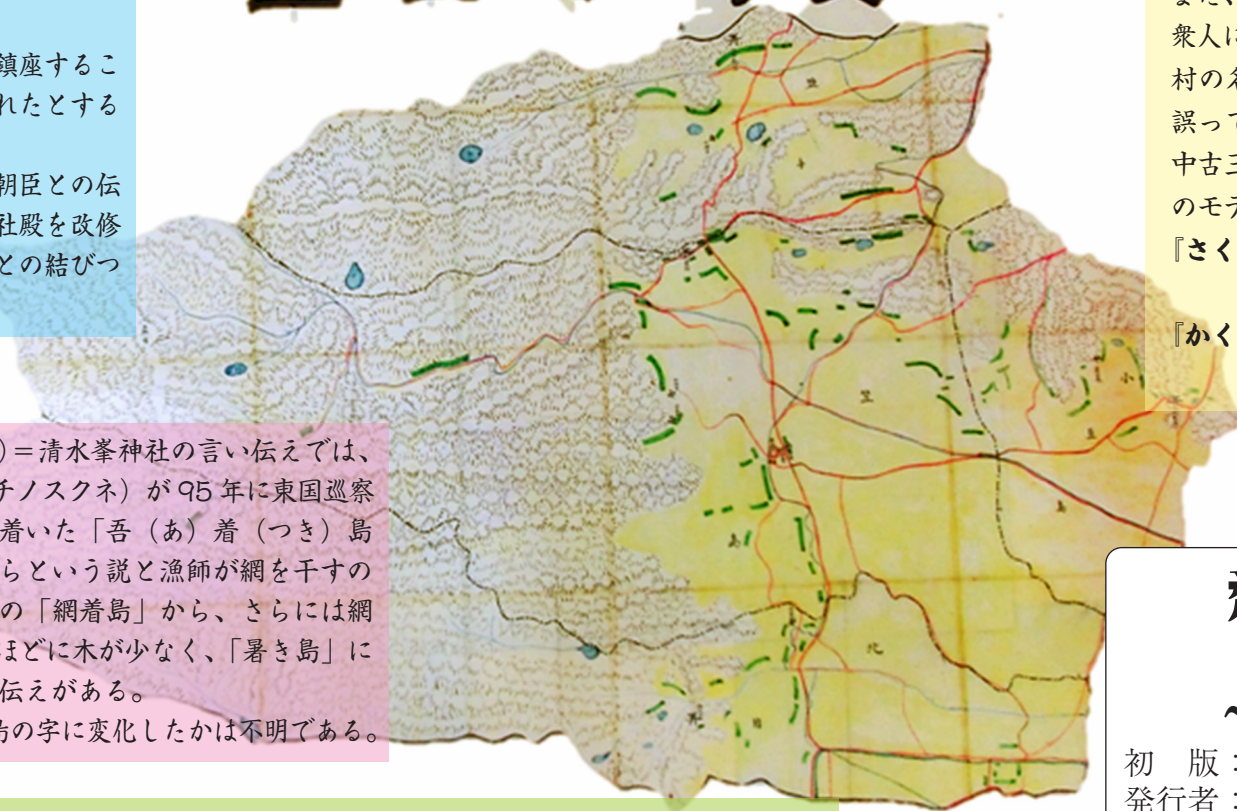
また、弁才天社が鎮座することから村名がつけられたとする説がある。

道祖神社は藤原実方朝臣との伝説や、伊達政宗公が社殿を改修をしたり歴代の藩主との結びつきが多い。

小豆島（あずきしま）＝清水峯神社の言い伝えでは、武内宿禰（タケノウチノスクネ）が95年に東国巡察の際やっとの思いで着いた「吾（あ）着（つき）島（しま）」と言ったからという説と漁師が網を干すのに良い島という意味の「網着島」から、さらには網を干すのに丁度良いほどに木が少なく、「暑き島」によるものという言い伝えがある。なぜこの話から小豆島の字に変化したかは不明である。

北目（きため）＝伝説では古く当地は海辺で、木を伐り溜めて売出したことから「木溜村」と称するようになった。また、別の伝えでは諏訪神社建立後に諏訪大神が南東の日向きを忌み嫌い、また目上に神を敬う心を表すため北目になったとある。北目の米は美味で江戸時代に伊達家へ献上米として贈呈されていた。

愛 鳴 村 全 圖



塩手（しおて）＝伝説によれば中将藤原実方朝臣の乗っていた馬の鞍を止める馬具の「四方手」を埋めたことになむ村名という説。

また、往古老僧が山下から湧く潮水を汲んで塩を煮、衆人に与えて病を治したので、塩の出る山を塩出山、村の名を塩出村と号するようになったとし、後に誤って塩手と書くようになった。

中古三十六歌仙の一人、源氏物語の主人公・光源氏のモデルとなった中将実方朝臣の墓がある。

『さくらがり あめはふりきぬ おなじくは
ぬるとも はなの かげにかくれむ』
『かくとだに えやはいぶきの さしも草
さしもしらじな 燃ゆる思ひを』

愛島の歴史散歩

まち歩きマップ講座

～ウォーキングひろめ隊～

初 版：令和2年3月31日 発行

発行者：愛島公民館

〒981-1238 名取市愛島笠島字上平27

TEL：022-382-2422

各地区みどころ（文・写真）：受講生
表紙・マップ（絵）：佐藤孝三